

一般演題10 (教育・研修)

O-50 効果的な新人研修の試み ～内視鏡室の理解を深めるために～

伊達赤十字病院 内視鏡室

看護師 (内視鏡技師)

○碁石 久・太細めぐみ・吉田ひとみ

山本 珠美・清野 美幸

看護師

田村美佳子・毛利 綾子

消化器内科

久居 弘幸

はじめに

当院内視鏡室では内視鏡検査を中心に、心臓カテーテルなどの血管造影や麻酔科による治療など、多岐にわたる業務を行っている。休日は1名での待機制、平日夜間の緊急呼び出しにも対応する。不規則な業務体制からか、前年度の意向調査では、第一希望で内視鏡室を希望する看護師は全くないのが現状である。意向調査を踏まえ、内視鏡室への勤務交代を躊躇しないための効果的な新人研修を検討したので報告する。



図1

内視鏡看護について理解できましたか

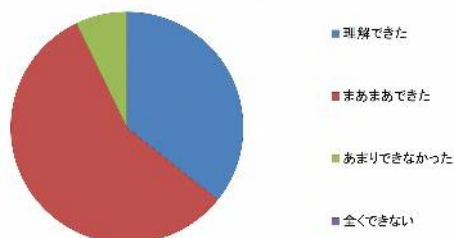


表1 n=13



図2

内視鏡の特性は理解できましたか

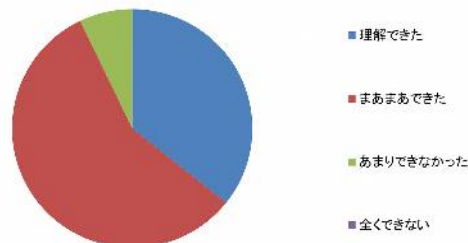


表2 n=13



図3

出療時の注意点について理解できました

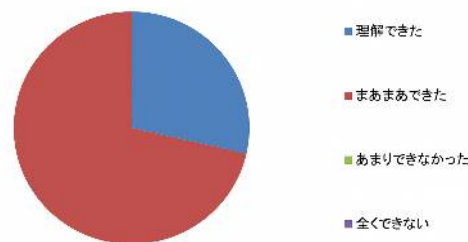


表3 n=13

背景

2005年前後より、当科紹介として研修へ参加している。内視鏡室の勤務形態や関連する科などの紹介を主に、申し送りのときの注意点など、病棟との連携について述べてきた。

2010年4月より、新人看護師への研修制度が努力義務化されたのを受け、当院においても新人看護師研修に職員が関わる機会が多くなっている。

本年度より新人看護師研修が義務化され、研修時間が2時間30分へ拡大し、これまでの内視鏡紹介の在り方を見直す機会であった。

目的

- ・新人看護師に内視鏡室について理解を深めてもらう。
- ・内視鏡室への勤務交代を躊躇しないための効果的な新人研修をおこなう

期間

平成24年3月1日～平成24年8月31日

方法

- ・新人看護師研修で動画も交えたスライドを活用し、内視鏡室のプレゼンテーションを行い広く知ってもらう。(図-1)
- ・実際の内視鏡室において、トロリーや各種スコープを見学する。(図-2、3)
- ・終了後アンケート調査を実施する。
- ・内視鏡スタッフへ新人研修についての勉強会を開催し、新人看護師研修についての理解を深める。

当院の新人看護職員研修の目的と目標

[目的]

- ・社会人・組織人・赤十字としての自覚を持ち、看護業務を遂行する能力を養う

[目標]

- ・看護を安全に提供するための技術を身につける
- ・リアリティショックを最低限に留めて職場へ適応できる
- ・社会人として自信を持ち、職業人としての行動を理解できる。
- ・生涯に渡って自己研鑽することができる基礎能力を身につける
- ・赤十字についての理解を深めることができる

結果

アンケートの結果から、特殊な部署への出入り方法や患者の出療時の注意点などは、ほぼ理解できたを含めると、全員が理解できたと回答した(表-3)。内視鏡室の看護や検査内容については、理解できなかったとの回答が2割程度あった(表-1、2)。

考察

解剖生理を踏まえたうえでの内容のため、新人には専門的過ぎ、難しかったと考える。しかし、研修終了後のアンケート調査は、研修内容のフィードバックにつながったと考える。

義務化された新人看護師研修の理念や目的、ガイドラインを知り、共有することで、内視鏡室の看護師にも職員全体で育てているという意識が高まった。

結語

動画を使ったプレゼンテーションや、内視鏡室でのデモンストレーションを取り入れることで、内視鏡室に対するイメージは変化した。

魅力ある職場づくりをすることが、意向調査に反映し、内視鏡室への交代希望者の増加につながる。

今後の展望

今後、内視鏡室での留学制度導入を取り入れることで、より理解を深めることが可能となる。

内視鏡室の看護師が、知識・技術の向上に努め、研修会や看護研究会への積極的な参加などで、意欲的に活動することが魅力ある部署となる。

魅力ある職場づくりをすることが、意向調査にも反映し、内視鏡室への交代希望者の増加につながる。

引用・参考文献

- 1) 木元早苗ほか：伊達赤十字病院看護部、新人看護師研修、平成24年度ガイドライン
- 2) 日本看護管理学会誌 Vol.14 石垣靖子：新人看護職員研修に関する検討会
- 3) 上泉 和子：新人看護職員研修のあり方に関する研究
- 4) 新人看護職員研修に関する検討会報告

連絡先：〒052-8511 北海道伊達市末永町81

伊達赤十字病院 内視鏡室

TEL0142-23-2211

O-51 開かれた内視鏡室をめざして

～内視鏡室見学会・勉強会開催により病棟及び関連部署との連携を強化する～

深谷赤十字病院 内視鏡室

内視鏡技師 ○藤浦 友子・根岸 一樹・戸井田恵子

目的

内視鏡検査・治療は前準備を要し侵襲度も高くリスクを伴う。安全・安心・安楽・満足な内視鏡を行うためには、関連部署との共通理解と、継続的かつ一貫性のある看護の提供が必要である。当院内視鏡室では、積極的に内視鏡技師資格の習得をスタッフに促し研究会・学会などを通じて、内視鏡室全体の知識・技術の標準化とレベルアップに努めてきた。一方、外来や病棟のスタッフは、内視鏡の実際に関わることなくクリニカルパスやマニュアルを用い、内視鏡の説明や前処置を行っている。有効な前処置を行うことの必要性や、前処置が不十分なことによるリスクへの理解は、部署でばらつきが見受けられた。

安全な内視鏡検査や治療を行うためには、内視鏡室だけでなく、内視鏡にかかわるすべての部署の知識・技術の標準化とレベルアップが不可欠である。そこで内視鏡看護への意識向上と、連携強化をめざし見学会と勉強会を実施した。その効果と今後の課題について検討したので報告する。

対象

内視鏡関連部署のスタッフ全体

方法

1. 実施期間：H23年6月7日～H24年3月31日
2. 集団見学会 3回 上部検査の前処置からスコープ洗浄までを見学
3. 勉強会 3回 開催時間：13時～15時(勤務時間内)
 - ①上下部検査前処置
 - ②PEG造設の治療と看護
 - ③ERCPの治療と看護
4. 個別見学 年間を通し個別申し込みによる自由参加
 - ・参加者にアンケートを実施
 - ・結果は単純集計し検討・分析

結果

集団見学会 26名・勉強会①21名②17名③9名(合計 47名)・個別見学 4名・延 77名が参加。看護師以外の職種(研修医・薬剤師・栄養士)から 6名の参加があった。

アンケート回収率は 96.1%で、すべての見学会・勉強会において、とても良かった・良かったが 100%だった。

参加者からは、①「有効な前処置を実施しなければならない根拠や重要性が具体的に理解でき、業務につながる」②「内視鏡室の環境や実際の方法を見学できたので、患者からの不安の訴えがあっても対応できる」③「PEG・ERCPが全体を通してイメージできた」④「勤務時間外の方が良かった」という意見があった。

内視鏡スタッフからは、①「自分自身の振り返りとなり、良い勉強の機会となった」②「真剣に聞いてメモを取る方がいてとても嬉しかった」③「スタッフ同士協力して準備することができた」④「資料の見直しなど準備に時間がかかった」との意見があった。

考察

見学会・勉強会で具体的な状況を設定し内視鏡の実際を体験してもらったことは、マニュアルではわからない前処置の「根拠や重要性」を伝えるきっかけとなった。また「患者からの不安の訴えがあっても対応できる」や「全体を通してイメージできた」などの意見は、参加者の自信に繋がり良い評価を得たと考える。

個別見学については、参加は 4名と少なかった。個別見学の募集方法の工夫と、業務時間中でも参加ができる体制を整えていく必要がある。

以上より、見学会や勉強会を実施することは、内視鏡にかかわる部署との共通理解ができ、継続的で一貫性のある看護の提供につながる。一度の試みでも効果は感じられたので今後も継続して行っていくことが重要である。他部署に対して情報を発信することは、内視鏡室スタッフのためにも知識の確認となり自己研鑽に繋がるといえる。

初めての試みであり手探り状態であった。今後この経験を生かし、他部署で必要とされている情報を掘り起こし、より多くの参加が得られる工夫をして行きたいと考える。

結論

集団見学会・勉強会・個別見学会は

1. 他部署の内視鏡に対する知識理解を深めるために有効である。
2. 内視鏡室スタッフの自己研鑽に繋がる。

3. 病棟及び関連部署との連携に繋がる。
4. 継続して実施していくことが重要である。

参考文献

- 1) 河野文弥、小柳亜衣、池本恵美：大腸内視鏡検査における病棟看護師との連携、日本消化器内視鏡技師会会報2010；46：89-91
- 2) 日本内視鏡技師会看護委員会編：消化器内視鏡看護業務基準2008；
- 3) 田中三千雄監修；消化器内視鏡看護 基礎から学びたいあなたへ、日総研出版、2003

連絡先：〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-8-1
TEL 048-571-1511

O-52 内視鏡技師の教育的関わりによる病棟看護師の意識変化

市立敦賀病院 消化器内科病棟 ○湊 直子・山田久美子・田辺 里江
内視鏡室 味岡 昭子・西澤めぐみ・寺川 知子

【はじめに】

消化器科病棟では、様々な内視鏡検査・治療（以後、検査・治療と略す）を受ける患者が入院しており、病棟看護師は、その前後の看護に携わっている。しかし、病棟看護師は、病棟での看護業務に追われ、検査・治療の現場に立ち合うことはほとんどない。このような現状の中、病棟看護師は、独自に検査・治療を受ける患者の看護を学んだり、消化器内科医、内視鏡技師を有する病棟師長から教育を受けたりすることで、患者の検査に対する不安の軽減や検査後の苦痛の軽減、偶発症の早期発見に努めている。

今回、病棟看護師の患者への関わりをより深めるために、検査・治療を実際に見学し、内視鏡技師（看護師）から直接教育を受けることで、あらためて病棟における検査・治療を受ける患者の看護に対し意識が高まることがわかったので報告する。

【目的】

内視鏡技師による病棟看護師への教育的関わりが、病棟看護師の意識を高め、検査・治療を受ける患者の看護の質を向上させることが出来る。

【方法】

- (1) 病棟看護師の検査・治療に対する意識調査を行なう。
- (2) 受け持ち患者が検査・治療を受ける際には立ち合い、内視鏡室での教育を受ける。
- (3) 立ち合い期間は3ヶ月（平成24年1月～3月）と定め、その後病棟看護師の意識変化の有無を確認するため、内視鏡技師を有する病棟師長の面談を受ける。

【結果】

(1) 意識調査

病棟で主に関わる検査・治療の必要性の理解や患者説明も曖昧な点が多い。また理解度の高いものは、検査・治療件数の多さと関連がうかがえる。

(2) 検査・治療の立ち合い

検査・治療に実際に立ち合った看護師は少なく、時間的に長くかかる手術は、業務の都合上最後まで立ち合えなかった。

しかし、立ち合った看護師は、「患者の苦痛の理解が深まった。」「内視鏡技師（看護師）の検査介助の内容がわかった。」「内視鏡技師（看護師）の患者へ関わりが苦痛の軽減につながると感じた。」など良い経験ができた。

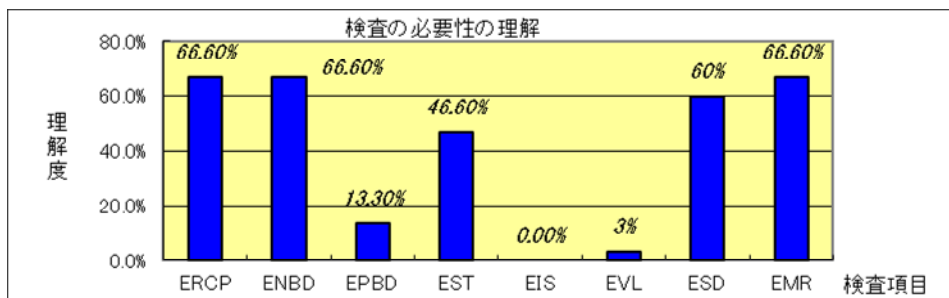
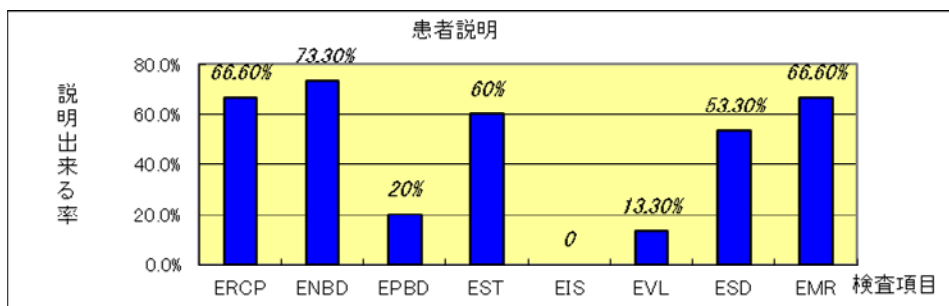
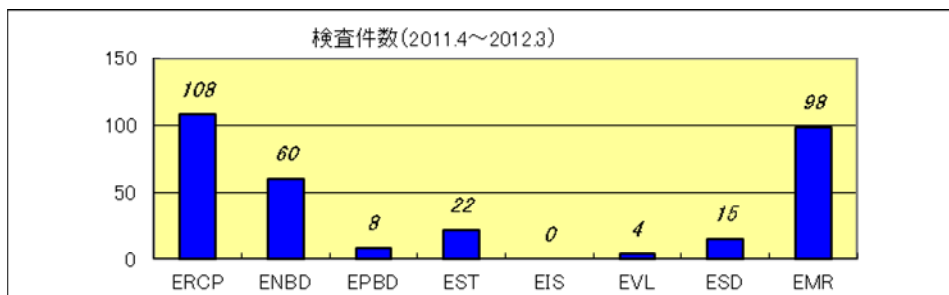
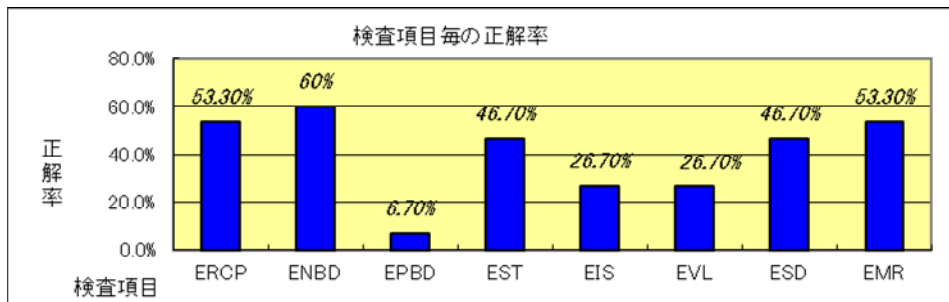
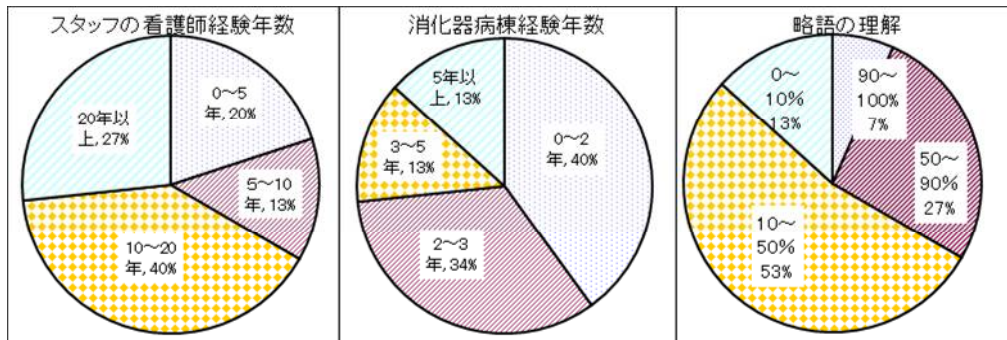
(3) 病棟師長面談

立ち合えた看護師からは、「検査前にどのような説明を行なえばよいのか理解できた。」「患者が検査前に不安を表現できるような声かけができるようになった。」「検査後の観察のポイントがより理解できた。」などの回答を得た。また、立ち合えなかった看護師からは、「看護の視点の変化を期待し見学したい。」「検査・手術についてもっと教えてほしい。」という声がかかれた。

【考察】

消化器科病棟は、検査・治療の患者の他にも、がん治療、終末期患者などが入院しており、様々な看護の提供が必要であり、検査・手術に立ち合う機会はほとんどない。しかし、立ち合うことでより検査・治療への関心や学習意欲の向上が見られた。また、患者の思いに添った説明が出来るようになり、検査・治療後の観察のポイントがより理解できることがわかつ

た。



検査・手術の立ち合いは、病棟での患者との関わりにも有効であり、看護の質の向上に繋がると言える。内視鏡技師（看護師）からの学びも多く、病棟と内視鏡室の連携を深める必要性も感じられる。これは、内視鏡技師（看護師）にも良い影響を与える機会になったと考える。

今後は、病棟と内視鏡室の連携を充実し、学習会や見学会、内視鏡技師（看護師）の患者訪問などを行い、より質の高い看護を目指したい。そのためには、内視鏡技師を有する病棟棟長は自己研鑽を重ね、いずれの部署においても人材育成の任を担わなければならない。

【結語】

- (1) 内視鏡技師の教育的関わりは、病棟看護師の意識変化をもたらし、看護の質の向上に繋がった。
- (2) 病棟と内視鏡室の連携を深めることは、より患者満足に繋がった。

参考文献：

- 1) 楠見朗子、小田原由紀子他；病棟看護師教育における内視鏡技師のかかわり。厚生連尾道総合病院医報2004, 12; 14号: 67-68
- 2) 楠見朗子、小田原由紀子他；内視鏡業務に関する病棟看護師の啓蒙を目指した院内留学の試み。厚生連尾道総合病院医報2006, 12; 16号: 68-70
- 3) 山田純子他；上部消化器内視鏡におけるプライマリーナーシングを試みて 患者看護師医師からの評価。明石市立市民病院病誌2009, 2; 14号: 17-19
- 4) 植田千恵、有博美、近藤裕子；内視鏡治療ESDに対する病棟と内視鏡の連携—ESDの勉強会・事例検討会を実施して—。日本消化器内視鏡技師会会報2010, 9; 97-98
- 5) 喜田紀子、篠原美代子他；内視鏡センターでの胆膵系検査記録と申し送りの実態調査—病棟看護師と内視鏡看護師のアンケートから—。日本消化器内視鏡技師会会報2009, 3; 118-120

連絡先：市立敦賀病院
〒914-8502 敦賀市三島 1-6-60
TEL：0770-22-3611

O-53 内視鏡検査・治療における介助技術向上への取り組み

～苦手意識調査を中心に～

石川県立中央病院 内視鏡室
内視鏡技師 ○梶田由紀子・筑波 幸江
看護師 三野 久美
看護師長 太田 淳子
消化器内科医師 土山 寿志

【背景・目的】

当院内視鏡介助は看護師が担当し、またその看護師は夜勤を含む救命救急センターと兼務の勤務体制である。1人あたりの内視鏡勤務回数が少なくなる勤務体制であるため、介助の実践の機会が少なく、確実な介助技術の習得までに時間がかかる。また内視鏡室への配属看護師数が少ないながらの多くの内視鏡検査・治療数であるため、新たに配属された看護師への教育の時間は乏しい。基本的な技術を習得できたとしても、自信がないまま検査・治療介助に携わることも多くなり、さらには複雑で経験数の少ない検査・治療に関して苦手意識を感じる傾向がある。検査・治療介助に十分な知識と技術と自信を持って臨むためには、現体制のなかでの苦手意識の克服とトレーニングを含めた手技の習得が課題である。今回は苦手意識調査を通して、効率の良い教育法を検討する。

【対象】

当院内視鏡室看護師 15名（内視鏡勤務年数5年以上7名、1年以上5年未満4名、1年未満4名）

【方法】

当院で施行している内視鏡検査・治療23項目において、苦手意識を調査し、かつ技術レベルをチェックリスト（満点356点）にて評価し点数化する。苦手意識の高い処置具操作を主とした勉強会を行った5ヵ月後に、苦手意識調査とチェックリストにて再評価した。（図1. 2）

【結果】

苦手意識のある項目は平均10.9項目であった。上位6項目に対して勉強会を開催した後の再評価では6.8項目と減少した。技術レベルは、5年以上291点、1年以上5年未満が254点、1年未満が150点であった。勉強会後の技術レベルは、5年以上は318点、1年以上5年未満が275点、1年未満が212点であった。経験の浅い看護師の上昇が顕著で、また経験を問わず上昇していた。苦手意識と技術レベルの評価は相関していた。（図3）

【考察】

勉強会後のアンケートで「イメージトレーニングができた」「不安感が減った」などの意見が多く、処置具取り扱い練習などのトレーニングを含む苦手意識の高い検査・治療を中心とした勉強会は効果的と考えられた。定期的に手技確認のために勉強会を開き、内視鏡検査・治療で使用する処置具の取り扱い練習を継続し、技術向上に向けて各自が目標を定め、取り組む気持ちを持つことが極めて重要である。高度な技術を要する検査・治療介助を経験が浅い看護師が担当する場合は、ベテランスタッフと共に介助できるように調整が必要である。次年度の研修計画や、検査・治療介助の看護師の環境を苦手意識のある検査・治療を中心に整えることに役立った。

【結論】

苦手意識調査と技術レベルチェックの評価に基づく教育にて、良好な結果を得ることができた。これらは経験の浅い看護師にはもちろんのこと、経験が十分な看護師にも有用であった。

消化器内視鏡検査/手術	5月	10月
留置スネアの準備と介助ができる	1	
食道静脈瘤の病態生理がわかる	0	
EIS(内視鏡的硬化療法)の準備と介助ができる	0	
EVL(内視鏡的静脈瘤結紮術)の準備と介助ができる	2	
ポリアクトミン/EMR(内視鏡的粘膜切除術)の適応と目的がわかる	1	
EMRの準備と介助ができる	3	

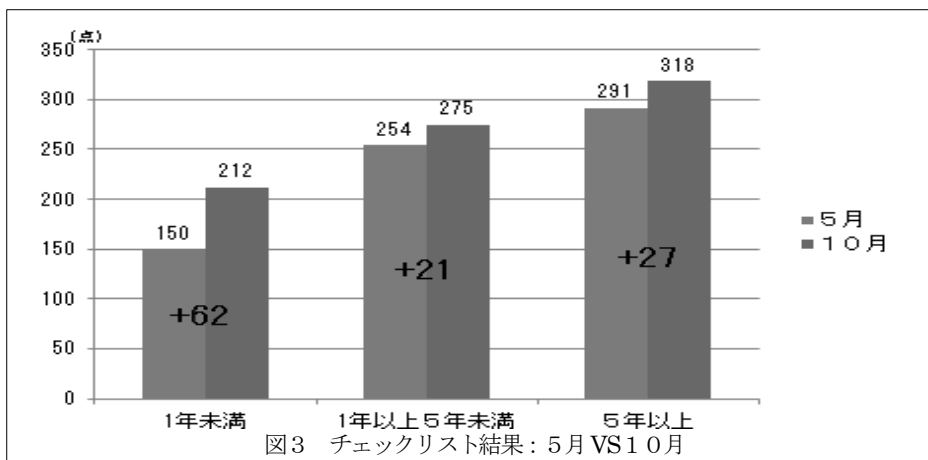
0 未経験 わからない
1 出来ない 少しわかる
2 指導があれば出来る 大体わかる
3 一人で出来る わかる

内視鏡室チェックリスト 一部抜粋

図1 技術レベルのチェックリスト

緊急内視鏡	咽喉ESD	ERCP	EVL
小腸内視鏡	食道ESD	EST	EIS
小児内視鏡 (手術室)	胃ESD	ERBD	胃静脈瘤硬化療法
EUS	大腸ESD	ENBD	留置スネア
TBLI	LECS (腹腔鏡・内視鏡共同手術)	拡張術	胃腸造設・交換
EBUS-TBNA	EMR-C	食道ステント	

図2 苦手意識調査：内視鏡検査・治療23項目



参考文献

- 1) 杉浦真由美：スキル評価表が内視鏡スタッフの教育に及ぼす効果、日本消化器内視鏡技師会会報、No46；120-121、2009.
- 2) 橋詰実千代他：内視鏡室における看護師の技術向上に向けての検討、日本消化器内視鏡技師会会報、No31；41-42、2003.
- 3) 山崎麻美他：内視鏡手術における看護師の意識向上を目指して、手術医学、第30回総会特集；60-61、2009.

【連絡先】〒920-8530 石川県金沢市鞍月東2-1
TEL：076-237-8211